

平成 23 年 2 月 15 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会



1 日 時 平成 23 年 2 月 15 日 ( 火曜日 )

午後 2 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

2 場 所 青少年文化センター 多目的ホール

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 内藤 博子 委 員 羽賀 友信

委 員 中村 美和 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長 野口 正巳 教育総務課長 若月 和浩

学務課長 武樋 正隆 学校教育課長 小野田 信子

子ども家庭課長 矢沢 康子 保育課長 佐野 勉

中央公民館長補佐 東樹 隆志 中央図書館長 小倉 進

科学博物館長 山屋 茂人 教育センター所長 山岸 文夫

学校教育課主幹兼管理指導主事 島倉 昭弘 学校教育課主幹兼管理指導主事 関谷 祐二

学校教育課主幹兼管理指導主事 山田 修

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 栗林 洋子 教育総務課庶務係長 新沢 達史

教育総務課庶務係 平澤 司

## 6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第6号	平成23年度学校教育の努力点について
3	第7号	条例廃止の申出について (長岡市小国青少年の家条例の廃止)
4	第8号	補正予算の要求について
5	第9号	専決処理について(補正予算の要求について)

## 7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会2月定例会を開会する。

---

### 日程第1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第44条第2項の規定により、内藤委員及び加藤委員を指名する。

---

### 日程第2 議案第6号 平成23年度学校教育の努力点について

(大橋委員長) 日程第2 議案第6号 平成23年度学校教育の努力点についてを議題とする。事務局の説明を求める。

(島倉学校教育課主幹兼管理指導主事) 各学校において、「熱中！感動！夢づくり教育」として、「どの子にもわかる授業の実現」「地域の力、市民の力を生かした教育の推進」「熱中・感動体験の充実」を柱に、実践を重ね、成果を挙げているところである。しかし、依然として、学力の2極化傾向、やる気や意欲の向上が各学校の課題となっている。このことから、平成23年度も内容を大きく変更することなく、取り組みを続ける。平成23年度の努力点の作成に当たっては、今年度の努力点の一部文言を加除・修正したり、項目の配置を変更したりして、受け止める学校

が読みやすく、視覚的にも効果が上がるように努めた。柱の一つである「どの子にもわかる授業の実現に努める」の項目では、「学校教育において」という文言を削除した。「学校運営、教育課程」の項目では、平成 23 年度から小学校で、平成 24 年度から中学校で、学習指導要領の趣旨を生かした教育課程を実施するため、「新学習指導要領の趣旨を生かして教育課程を見直し」の部分を一部修正した。また、来年度以降、特別支援教育を充実させていくことから、「特別支援教育」の項目を中央部に配列した。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 依然として、学力の 2 極化傾向、やる気や意欲の向上が各学校の課題となっているとの説明であったが、依然としてではなく、引き続き改善に努める旨の表現が適切ではないか。

(島倉学校教育課主幹兼管理指導主事) そのとおりであると思う。ご意見を踏まえて改善を進めたい。

(大橋委員長) 「特別支援教育」の項目は、配列を変更しただけではなく、「管理職及び特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制と校内委員会を機能させ、」というふうに、今後の取り組みに期待できる内容に加筆されていて大変良い。また、「生徒指導」の項目の中で、昨年度は「不登校やいじめ」の順で表記されていたのが、「いじめや不登校」になっている。この意図は何か。

(島倉学校教育課主幹兼管理指導主事) いじめも不登校も解決しなければならない重要な問題であると捉えている。いじめは人権にかかわる重要な問題であるため、前に持ってきた。

(大橋委員長) 「体育・健康に関する指導(食に関する指導)」の項目では、「生活習慣の改善に努める。」から「健全な生活習慣を身に付けさせる。」に変更になっている。より掘り下げた内容になったことが評価できる。ところで、柱の一つである「地域の力、市民の力を生かした教育を推進する」の項目では、「地域のボランティアやコミュニティセンター等を積極的に活用し」とあるが、コミュニティセンターを積極的に活用するとは、具体的にどういうことか。

(島倉学校教育課主幹兼管理指導主事) コミュニティセンター利用者等、地域の力を活用するということである。

(加藤教育長) 長岡市では、合併前よりコミュニティセンター構想があり、地域のことは地域で行うという考えが根底にある。地域は人材の宝庫であり、コミュニティセンターには人的ネットワークの役割がある。そのため、学校とコミュニティセンターが連携をとることが必要である。また、特別支援教育について大橋委員長より指摘があったが、特別支援教育コーディネーターとは、学校に配置された教員の中で、校長が新たに指名をするものである。つまり、新たに人員を追加して配置する加配とは違う。よって、指名される特別支援教育コーディネーターは、今もっている業務に加えて新たに仕事が増えるため、管理職の配慮等、働きやすい校内整備が必要である。そのため、「管理職」という文言を付け加えた。学校訪問を行うと、特別支援教育を特別支援教育コーディネーターや特別支援学級の担任任せという学校がある。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

---

日程第3 議案第7号 条例廃止の申出について(長岡市小国青少年の家条例の廃止)

(大橋委員長) 日程第3 議案第7号 条例廃止の申出について(長岡市小国青少年の家条例の廃止) を議題とする。事務局の説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 本件は、長岡市小国青少年の家を長岡市おぐに運動公園の施設とする、用途変更に伴う条例の廃止である。小国青少年の家はおぐに運動公園に隣接している施設である。昭和52年に青少年の健全育成を目的として、当時の小国町が設置した施設である。しかし近年、青少年団体の利用が激減している。そこで昨年度より、子ども家庭課と小国支所地域振興課とおぐに運動公園を管理しているスポーツ振興課で、今後の有効活用について協議を重ねてきた。その結果、小国青少年の

家をおぐに運動公園の施設の一つとすることで、青少年に限らず利用できる施設にしたいものである。今回、長岡市小国青少年の家条例を廃止し、スポーツ振興課の方で、長岡市運動公園条例の一部を改正することになる。現在、バンドの練習等で使用している青少年団体があるが、代替施設として小国公民館や小国会館等を利用してもらうことで話し合いがついている。利用者を青少年に限定しないため、利用者の増加を見込んでいる。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) 運動公園の一部とすることで大きく変わるところは何か。

(矢沢子ども家庭課長) 小国青少年の家は、おぐに運動公園でスポーツ大会を開催する時でも空けておくことが多かった。しかしこれからは、スポーツ大会を開催する時などに、準備や休憩のために利用することが多くなると思う。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

---

#### 日程第4 議案第8号 補正予算の要求について

(大橋委員長) 日程第4 議案第8号 補正予算の要求について を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 【議案書により説明】

(武樋学務課長) 【議案書により説明】

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 宮内中学校及び養護学校の工事進捗状況は大雪の影響を受けているか。

(若月教育総務課長) 大雪の影響を若干受けているが、工期中に取り戻すことは可能である。宮内中学校は平成23年11月、養護学校は平成24年3月の完成予定に

変更はない。

(大橋委員長) 就学援助・奨励費補助の認定者数が300人から400人増加することが見込まれるとの説明であったが、そんなに増えるのか。

(武樋学務課長) もともと、今年度当初予算の見込み数を絞っていたこともあるが、平成21年度決算と比較すると、小・中学校を合わせて300人程度増加しているためである。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

---

日程第5 議案第9号 専決処理について(補正予算の要求について)

(大橋委員長) 日程第5 議案第9号 専決処理について(補正予算の要求について)を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 今年度は大雪のため除雪費用が例年よりかかった。委員会に諮る時間がなかったため専決処理をしたもの。各課の説明については省略させてもらい、一括で承認を求めるものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) 大雪により顕著にダメージのあった施設はあるか。

(若月教育総務課長) 栃尾、山古志、川口地域等の山間部の学校は、他の地域と比べて除雪費がかかっている。雪に押されて窓ガラスが割れるなどの被害はあったが、施設自体に顕著なダメージはない。

(大橋委員長) 保育園はどうか。

(佐野保育課長) 雪が多い地域の保育園については、支所と連携をとり、支所のバックアップがあったため、大きな問題はなかった。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり承認することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり承認した。

---

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告に入る。まず、長岡市総合計画後期基本計画(原案)について、事務局から説明を求める。

(若月教育総務課長) 【資料により説明】

(小野田学校教育課長) 【資料により説明】

(矢沢子ども家庭課長) 【資料により説明】

(小野田学校教育課長) 【資料により説明】

(山屋科学博物館長) 【資料により説明】

(矢沢子ども家庭課長) 【資料により説明】

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(中村委員) 「安全・安心な教育環境の整備」について、防犯パトロール団体が60団体程度あるとのことだが、防犯パトロール団体の活動の様子を見かけると、登下校する子どもたちの様子を見守っている地域もあれば、そこまででない地域もある。地域の実情に合わせて、地域ごとに組織するものなのか。

(小野田学校教育課長) 地域の実情はまちまちであるため、一律にすることは考えていない。後継者不足の地域もある。地域の実情に合わせた活動を行ってもらっている。

(羽賀委員) 「子どもサポート体制の充実」について、長岡市の小・中学校におけるいじめの発生率は、平成19年度をピークに現在は約半数に減少しているとのことだが、逆に、不登校の発生率に変化が見られない。この原因は何か。

(小野田学校教育課長) 不登校については原因の特定が難しい。自分がなぜ不登校になったのかわからない子どももいる。中1ギャップなど原因はいろいろあると思う。子どもが自己肯定感を持てるよう、「熱中!感動!夢づくり教育」を実施して

いる。小学校から中学校へ入学するに当たり、入学当初のつまづきをなくすように、小・中連携に取り組んでいる。なお、長岡市の発生率は全県の中で低い。なお、平成 27 年度の目標値については、全国の中で発生率の低いところと同じ数値にしてある。

(大橋委員長) 教育センターに寄せられる相談件数が平成 21 年度は増加しているが、どのような傾向があるか。

(山岸教育センター所長) 早期相談が多くなっている。そのことが早期解決に繋がっている。また、小学校の低学年に関する相談が多い。

(内藤委員) 学習障害などの発達障害への理解を深めるために、保護者などへの啓発を推進しているとのことだが、長岡市は保育園が教育委員会の所管であるため、保護者への周知が進んでいるという声を聞く。保育園との関連で、どのような取り組みがあるか。

(山岸教育センター所長) 教育センターで保育士の研修を年 3 回実施している。内容としては、言葉に関する研修などである。勤務の邪魔にならないよう、午後 6 時 30 分から開始している。

(内藤委員) 保護者から良い評判を聞いている。おかげで、困った時に素早く対応でき、大事に至らなかった経験がある保護者もいる。

(加藤教育長) 羽賀委員から指摘があった、長岡市の小・中学校におけるいじめの発生率が、平成 19 年度をピークに減少していることについて、1 件のいじめが非常に重く、解決に時間がかかり、いろいろな要因が複雑に絡み合っていることが考えられる旨の表現が必要なのではないか。件数だけで判断してはならないのではないか。また、「不登校や学習不振」の表現は「不登校や学業不振」の方が適切ではないか。それから、いじめ・不登校等に関する平成 27 年度の目標値は 0 %ではないのか。数値目標を掲げて良い事業とそうでない事業がある。

(小野田学校教育課長) 確かにいじめについては、解決に苦慮するものがあると認識しているので、そのあたりをうまく表現したいと思う。「学習不振」と「学業不振」についても再度検討したい。目標値については、当初 0 %として提出したが、委員から 0 %はありえない、実現可能な数値にすべきとの指摘があったため、やむを得ず目標値を掲げた経緯がある。同様に、「セーフティーパトロール」団体の組

織率についても、100%はいかがなものかとの指摘があり苦慮した。「地域連携フォーラムに参加する地域の住民・保護者の数」についても同様に苦慮した。議員協議会や部会でも現実的な数値をとの話があった。

(大橋委員長) 加藤教育長の話を受け、再度検討をお願いしたい。確かに、「地域連携フォーラムに参加する地域の住民・保護者の数」は、参加する住民・保護者数が今後減少すると予想される。また、教育センターの相談件数が増えていることについても、相談内容が重要であり、どのような相談が増えているのか、そのあたりにも触れた方が良いと思う。

(羽賀委員) 「親も一緒になって成長していけるような環境づくりを進めます。」という一文があるが、良い内容であると思う。現代は荒れた世代が親になっている。学校を訪問すると教室内に声にならない怨嗟の声があるように感じる。そして、そのことに教員が苦慮しているように感じる。学校がどうあるべきかという共通のビジョンを示しているように感じた。

(大橋委員長) 総合計画で示している基本的な理論と、毎年発行している「長岡市の教育」の具体的な内容の関連性が重要である。

(加藤教育長) 例えば、「ようこそ「まちの先生」」の活用に関しては数値化することが可能である。また、中村委員から指摘のあった防犯パトロール団体についてであるが、外国人が日本の風習や風俗、取り組み等について意見を述べるテレビ番組で取り上げられた。番組では、防犯パトロールはよい取り組みであり、日本は安全な国だと言っていた。諸外国では、子どもの安全は親の責任であり、親が送迎するかスクールバスに乗ることが多いようだ。このような取り組みは長続きしてほしいので、活動を画一化せず、各地域の実情に合った活動を行ってもらうことが大事である。ところで、市民1人当たり年間図書館資料貸出数が6.4冊とあるが、長岡市と同規模の市の中で、どのくらいの位置づけか。

(小倉中央図書館長) 上位ランクである。

(加藤教育長) そのあたりを市民がわかるようにした方がよい。米百俵号の貸し出しも含まれているか。

(小倉中央図書館長) 含まれている。

(大橋委員長) その他質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に平成 23 年度長岡市教育委員会当初予算の概要について、事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 【資料により説明】

(小野田学校教育課長) 「夢ラジオ」in JHS が追加分である。市内の全中学校から順番に FM ラジオに登場してもらい、自分たちの学校や地域や仲間について紹介をしてもらう事業である。カーネーションプラザで毎月 1 回公開録音をする。子どもたちに地域に誇りを持ってもらうことを目的とする「熱中！感動！夢づくり教育」の一環である。

(小倉中央図書館長) 「互尊文庫改修事業費」は「住民生活に光をそそぐ交付金」に回ったため、建物の耐震診断の委託料に回すことになった。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 科学博物館の予算はほぼ全て通っているようだが、全事業を行う予定なのか。

(山屋科学博物館長) 開発に伴う遺跡の発掘調査費である。開発する際に遺跡を発見した場合には、調査をして報告書をまとめるか、開発をしないかの 2 択のため、予算はほぼ満額つくものである。

(大橋委員長) 総合計画に関連したものか。市民に対して文化財を保存し、教育や地域振興に活用するために行うのか。

(山屋科学博物館長) 記録保存が目的であり、文化財の保存という観点とは少し違う。

(大橋委員長) その他質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に平成 23 年度「熱中！感動！夢づくり教育」の概要について、事務局の説明を求める。

(小野田学校教育課長) 今年度と大きな変更はなく、新規事業を追加したものである。新規事業は「縄文出前授業・体験学習」「夢ラジオ」である。「郷土長岡を語る「長岡学」」は、長岡について最低限知っておいてもらいたいことをまとめたものであり、長岡を誇りに思ってもらうために作成する。毎年小学校 5 年生に配布する

が、配布初年度は小学校5年生から中学校3年生に配布する。市民にも配布したいと考えている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 「郷土長岡を語る「長岡学」」は事業費が24万円減額となっているが、大丈夫か。

(小野田学校教育課長) 大丈夫である。

(大橋委員長) その他質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果と長岡市の比較・考察について、事務局の説明を求める。

(関谷学校教育課主幹兼管理指導主事) 本調査は抽出調査であり、小学校5年生と中学校2年生を対象としている。種目は8種目である。なお、本調査と別に、県の体力テストを、毎年、県内小・中学校の全児童生徒を対象に実施している。まず小学校5年生についてであるが、都道府県別の比較では、新潟県は男子が全国3位、女子が全国4位である。県との比較では、長岡市は種目によって県平均を下回るものもあるが、男女ともに合計点で県平均を上回っている。なお、長岡市は全国平均をほぼ全ての種目で上回っている。次に中学校2年生についてであるが、都道府県別の比較では、新潟県は男子が全国4位、女子は全国8位である。県との比較では、長岡市は県平均を若干下回っているが、昨年度と比較すると改善されている。なお、長岡市は女子のボール投げ以外は全国平均と同じ若しくは上回っている。長岡市が全国的に高い体力水準を維持できている背景には、各学校における「1学校1取組」の実施、小学校における「ふれあいスポーツアシスタント事業」や中学校における「中学校体育種目の指導」等により、児童生徒の体力向上に資する事業を継続的に行ってきた結果と考えられる。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 「1学校1取組」の例として、どのようなものがあるか。

(関谷学校教育課主幹兼管理指導主事) 最も多い取り組みは、体育の授業の準備運動で、体力要素を加味していることである。また、小学校ではカードを作成し、年間通じて縄跳びや持久走を継続するような取り組みを行っている。

(大橋委員長) 県平均を下回っている種目があるが、このことについての検証結果はどうか。

(関谷学校教育課主幹兼管理指導主事) シャトルランのような全身持久力が必要な運動は全国平均を大幅に上回っている。50m走についての検証は行っていないが、筋力や瞬発力や走り方のフォームが関係している。

(大橋委員長) 本気で走る経験は非常に大事なことである。

(加藤教育長) ボール投げのボールは小学校と中学校で違うのか。

(関谷学校教育課主幹兼管理指導主事) 小学校はソフトボール、中学校はハンドボールである。

(加藤教育長) 中学校2年生女子のボール投げの結果が残念である。現代社会は便利になりすぎているため、体育の授業の時くらいは思いっきりやってほしい。

(中村委員) スキー授業の実施は学校の裁量に任せてあるのか。

(関谷学校教育課主幹兼管理指導主事) スキー授業の導入については学校の裁量に任せてある。中学校では、クロカンスキーよりアルペンスキーの方が主流であり、また、スキー授業を実施しない学校が増えてきている。

(加藤教育長) 学校によってスキー授業を行うところと、スキー遠足を行うところがある。雪国に育ってもスキーを体験しない子どもが増えているため、県が費用を負担して啓発している。

(大橋委員長) その他質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に平成22年度文部科学大臣優秀教員表彰について、事務局の説明を求める。

(山田学校教育課主幹兼管理指導主事) 1月31日に日比谷公会堂で表彰式が実施された。被表彰者は879名で、その内、新潟県の被表彰者は16名である。長岡市立学校勤務の被表彰者は、表町小学校の笠原道宏教諭と南中学校の有本千晴教諭の2名である。県立長岡聾学校の教諭も1名表彰を受けている。なお、県優秀教職員表彰は、笠原教諭と有本教諭以外に宮内小学校の本多真人教諭と関原中学校の石坂初江教諭が表彰されている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に協議報告はないか。

(若月教育総務課長) 平成 23 年 4 月 1 日付け組織変更案の概要について説明する。  
本日の記者会見で、市長が市長事務局と併せて教育委員会の組織変更についても発表した。子育て支援策の更なる充実を図るため、それを所管する「子育て支援部」と、学校教育、教育機関等を所管する「教育部」の 2 部体制となる。市町村合併により教育委員会が所管する施設が多くなり、学校は 88 校、保育園・幼稚園は 50 園となった。そのため、施設の維持管理を効率的に行うため、「教育施設課」を新設する。また、割愛職員の更なる有効活用と連携強化を図り、学校における諸問題に対する即応性を高めるため、教育センターを学校教育課の課長補佐級の組織に変更する。更に、適正配置を含めた保育園のあり方や、年々増加する保育料滞納対策等を強化するため、保育課の「保育係」を「保育政策係」と「管理運営係」に分割する。教育委員会 3 月定例会において所要の規則改正等を提案する。

(大橋委員長) 他に協議報告はないか。これをもって協議報告事項を終了する。

---

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に大河津分水資料館、ワークセンターざおう並びに青少年文化センターを訪問した。委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(中村委員) 大河津分水資料館は規模の大きい施設である。数年前にリニューアルしたということであるが、大変見やすい展示であった。説明者の説明も大変わかりやすかった。また、天気の良い日は展望室から八海山や苗場山が見えるとのこと。ワークセンターざおうは説明が大変わかりやすくて良かった。パンも大変おいしかった。知的障害者の方が作業をしていたが、私語がなく、時間通りに仕事をしていた。青少年文化センターは、プラネタリウムを見れて良かった。施設は古いが、いろいろ実施している講座は人気があるとのこと。指定管理者の方の対応が良く、利用者が増えているとのことだった。

(内藤委員) 大河津分水資料館は十数年前に行ったことがあるが、当時より、リニューアルした現在の方が大変良い。県内の学校が毎年見学に来るとのこと。長岡市立学校では東中学校の利用が多い。中学生の内に知っておくと良い展示内容であり、

新潟県の歴史がわかるものであった。ワークセンターざおうは清潔感があり、就労者の方が一生懸命働いている。パンの技術を活かせる場が地域から減っていることが残念である。青少年文化センターは、指定管理者の職員自身が楽しんでアイデアを出して運営していることが人気の理由であると思う。近くに高校があるため、高校生からもっと利用してほしい。

(羽賀委員) 大河津分水資料館は、私が以前、子どもでも、学者でも、外国人でも勉強でき、楽しめる場所にしてほしい、新潟県の本質がわかる施設にしてほしいと要望した施設である。大変良い施設になっている。ワークセンターざおうは、就労者の高齢化が進み、また、養護学校も増築しているため、今後需要が増える施設である。青少年文化センターは今回初めて入ったが、レトロな施設である。プラネタリウムが良かった。

(大橋委員長) 大河津分水資料館は以前よりも良い施設になった。学習の場として良い場所であるため、親や学校からもっと活用してほしい。ワークセンターざおうは、先ほど、総合計画の説明の際に、養護学校高等部生徒の現場実習受入れ事業所数を 29 箇所から 40 箇所へ増やす目標値を立てていたが、これからもっと必要になる施設である。交通上不便な所にあると思うが、就労者は毎日通ってきているとのことである。青少年文化センターは指定管理者が一生懸命にやっている。利用者も増えているとのことなので、今後がんばってほしい。

(加藤教育長) 大河津分水資料館は、今回他の用務があって行けなかったが、遺跡もあり、昔から肥沃な場所であった。ワークセンターざおうについて、養護学校高等部 3 年を卒業し、ワークセンターざおうで自立訓練を 2 年、就労支援を 2 年、計 7 年間かけても、一般就労できた方が平成 20 年度、21 年度で 3 人しかいないという説明であった。その内、2 人は福祉施設の障害者採用であり、1 人はジャスコに採用された。一般就労はかなり厳しい状況である。そして、就労できない方が高齢になり、就労支援 B 型を受けている。平均年齢が 49 歳とのこと。これからもっと需要が見込まれるため増えてほしい施設である。青少年文化センターは古い施設であるが、設備を入れ替えるなどして上手に使っている。特に老朽化が激しいプールは今年度で終了する。残りの期間、事故なく営業してほしい。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

---



会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員